

新里恒彦氏は、沖縄県の教員を退職後、退職金などを原資に、1993年沖縄県中部の恩納村に非行やひきこもりの子ども達に自然体験を通してたくましく生きる力を育てるための施設「ケルン自然体験苑（現在：ケルンCarin自然体験学園）」を創設した。

きっかけは、1988年から3年間トルコ共和国に勤務した頃、トルコの子ども達は、貧しさや如何なる困難にもめげず、非常にたくましく生きていたが、日本へ帰国後、沖縄で不登校や引きこもりの子どもたちが増えている現実にも直面したからである。

「生きる力や方向性を見失ったままになっている子どもたちに人工空間でなく、自然の中で伸び伸びと体験させることによって、生きる力を育ててあげたい。」

そこで、土地500坪を借り、20人が宿泊できるプレハブの家と農園、家畜小屋、池などをつくり、子どもたちと一緒にヤギやアヒルの世話を行い、農作物を育てる共同生活を開始する。そして、創設以来16年余、今日まで述べ998名の不登校児や非行少年たちを預かり、その中の6割近くの子どもたちを学校や社会に復帰させ、更正に導いている。

その地道な活動が評価され、度々、新聞などに報道されるようになり、施設への入園希望者が増加。一層の受け入れを図るために、沖縄県北部の大宜味村の山林を自費で6,000坪購入し、隣接する畑地4,000坪は支援者が購入して提供してもらう

広大な自然の中で伸び伸びと体験させることによつて、  
**気づき、感動し、創造する**  
**喜びを知り、子ども本来の**  
**「たくましく生きる力」を**  
**育ててあげたい**



ミカン(シークワサー)を植える子どもと指導する新里氏

こととなり、移転を決定。建物や諸費などは、自費でまかない、2003年4月に完成。新里氏の取り組みは、同じ教育者たちからの共感を得て、教育委員会の視察、指導者の研修訪問なども行われるようになった。また、講演会、書籍などによる啓発活動も実施している。



■ケルン自然体験学園前にて

しんざと つねひこ

**新里 恒彦** ケルン(Carin)自然体験学園 理事長



沖縄県平良市久松出身。「目くぼり・心くぼり・心くぼり」がモットー。沖縄県の教員を退職後、学校で居場所を失った子どもたちのためにと長年の教育相談員の経験を生かし、恩納村で子どもたちの自然体験施設を主宰。その後、大宜味村に拠点を移し、特定非営利活動法人格(NPO)認証を取得するなど活動を続けている。

推薦者 **稲葉 耶李** 那覇簡易裁判所 判事